

地球規模保健課題解決推進のための研究事業（日米医学協力計画）
「日米医学協力計画の若手・女性育成のための日米共同研究公募」
事後評価 課題評価委員会における主な指摘事項

研究開発課題名	合成ジシアリル T 抗原糖鎖による腸管毒素原性大腸菌の付着およびコロニー形成抑制効果の検証 / Development of Disialyl-T Derivatives and Evaluation of their Suppressive Effect on Enterotoxigenic Escherichia coli (ETEC) Adherence and Colonization
研究開発機関	岐阜大学 応用生物科学部
研究開発代表者	今村 彰宏
研究期間	令和 1 年 9 月 1 日から令和 4 年 3 月 31 日

○評価委員会コメント

強み：

- 当初計画していた研究成果は着実に得られた。最終的に in vivo での実験で有意な阻害活性はみられなかったが、当初の研究の目標は達成できたと言える。
- 真摯に研究テーマに従って、日米医学の発展に努力されており、今後の成果を期待する。
- 日米の研究グループが相互補完的に研究を行い一つの結論を得ることができた。日米の連携という意味では有機的な連携が連携あったとまでは言えないものの、日米医学協力計画のための取組みに資するものであった。是非今後とも発展的に取り組んでほしい研究テーマである。

弱み：

- 日米の研究者が相補的に連携して研究を進め、化学合成した 5 種の糖鎖誘導体が試験管内では有効であるが、マウスモデルを用いた評価で十分な効果が見られないことを明らかにした点で評価できる。一方でマウスモデルを用いた評価で十分な効果が見られなかったため、更なる発展が望めない事は残念であった。
- どのような成果が出たら創薬に繋がるのかのロードマップを示しながらの研究の遂行が図られるべきと考える。